

県南思考 Vol.11

特集：森の資源をどう活かす

千葉県の森林面積は約16万ヘクタール。その約60%が南房総に集中しています。豊かな森林は人々に安らぎを与え、貴重な資源として暮らしを支えてきました。ところが近年、安価な外国産の建築用木材が大量に輸入されるようになり、木材の国内価格が下落。採算が取れないため、以前のように森林所有者が山に入らなくなりました。入らないため山が荒れ、その結果、ますます資産価値が下がるといった悪循環が起きています。このままでは貴重な森の資源が失われる一方。そこで、もっと「森林資源」を有効に活用しようと、さまざまな試みがスタートしています。

林業再生プロジェクト



特集：森の資源をどう活かす

結びの対論

亀田県議×木下県議×秋山県議

山の木が育つのに時間がかかるように
林業の再生プロジェクトは
腰をすえて取りくむ必要があります。

亀田 人が山に入らない、森林が荒れてきた、そう呼ばれてずいぶんになります。外国製の安い建築材が入ってきて林業が成り立たなくなったり。もちろんそれは大きな理由でしょうが、それだけではないはずなんですね。

木下 昔の農家は風呂を薪で沸かしていたし、炊事だってかまどで煮炊きをし、囲炉裏にはいつも火がくべてあった。ちょっと裏山へ入って倒木を拾ったり、陽あたりの悪いのを切り倒して薪にしたり。

秋山 建築材としても、こどもが結婚するんで自分の山から材木を切り出して、柱を立て、床の間を飾るといった普請が少なくなかった。

亀田 つまり、人々の暮らしと山が密接に関わっていたわけですね。

木下 いまは、どの家庭でもプロパンで風呂を沸かすし、家を建てるのだって、住宅メーカーに発注して既存のパッケージで建てる例が増えてきた。山に入る理由がなくなってきたんです。

亀田 社会構造そのものが変化してきているですから、この問題は市民がどうのこうのというレベルではなく、やはり国や県がしっかりと対策を講じなければなりません。

秋山 その意味で、木材利用促進法が施工された意義は大きいと思いますね。きょう見せていただいた朝夷行政センターですが、木の受付カウンターと間仕切りが訪れた人の目に入って、やはり、他の役所とは印象が違います。

木下 丸山中学校も印象的でした。校内の、いたるところに木がふんだんに使われている。インテリアとしてすぐれているだけでなく、なんともいえない安らぎがある。しかも、その木は地元の山から時間をかけて選び、切り出している。

亀田 あの環境で勉強できる生徒さんたちがうらやましい。教科ごとに教室を移動するユニークなシステムも採用されていて、私など、もういちど勉強し直したいと思いましたから（笑）。ところで、森林組合の説明によると、いまは建築材より、バイオマス製品がウエイトを占めているということでしたが、その割合が70%を超えていたのが驚きでした。

木下 建築材というのは工業製品ですから、人工乾燥させて、規格通りに製品化しなければならない。いま、外国産の製品がなだれ込んできているなかで、設備投資をして他と競走していくのはコスト

的にも、なかなかむずかしい。やはりバイオマスがひとつの方向であることは間違いないんですよ。

亀田 牛舎の敷きわら代わりに活用されることが多いということでしたら、もっと燃料としての側面に注目する必要もあるんじゃないでしょうか。朝夷行政センターで印象的だったのは、フロアの片隅に薪ストーブが据えられていたこと。空調機と併用することで、少なくとも電気エネルギーの節約にはなっている。

木下 たき火を見ているとあきないように、やはり火を見ていると人間は落ち着くんですね。

亀田 いま、石油とか原発だと日本エネルギー問題はさまざまな問題をかかえているわけですが、たとえば木を燃料にした発電という考え方もある。小規模でもいいわけですから。

秋山 森林組合の加工所では農家のハウス暖房用に薪を出荷しているという話を聞きました。ただ、いまのボイラーはスイッチを入れておけば重油や灯油をたいて自動的に気温が下がったら火が入るなど、手がかかる装置になっている。薪に戻すとなると大変ですね。

木下 でも「必要は発明の母」といいますから、いずれ自動的に、木片やチップが燃やされてハウスを暖めるシステムは開発されると思いますよ。そんなに複雑な技術が必要でもないでしょうし。

亀田 機械が開発されれば農家にとっては、たいへんなコストダウンになりますね。なにしろ燃料となる材料はいくらでも地元で安く手に入るわけですから。

木下 今日、山の現場を見てきましたが、木を切り出して、その後に植林して、植えた木が育って、また利用してと、それこそ何十年というサイクルで仕事に取りくんでいる。つまりそれくらい長いスパンの仕事なんですね、林業というものは。バイオマスといつても、あれだけ手間ひまかけてコスト的に合うかどうかは疑問です。結局、費用対効果だけで考えてはいけなくて、国土保全というスケールで考えいかなければならない問題なんですよ。

秋山 今回、国や県が本腰で林業に取りくむようになって、南房総の林業再生はようやくプロジェクトがスタートしたばかりです。ですから我々も、広い視野をもって腰をすえて取りくんでいくんだという心構えが必要ですね。

秋山 光章（あきやま みつき）

館山市選出
昭和 21 年 9 月 21 日生まれ



事務所 /
〒294-0045 館山市北条 2570-111
TEL : 0470-23-5252 FAX : 0470-23-5251
<http://akiyamamitsuaki.jp/>
e-mail : ohshimiz@poppy.ocn.ne.jp

木下 敬二（きしらけいじ）

南房総市・安房郡選出
昭和 23 年 5 月 17 日生まれ



事務所 /
〒295-0005 南房総市千倉町牧田 164-1
TEL : 0470-44-4111 FAX : 0470-44-4112
<http://kishitakei.com/>
e-mail : info@kishitakei.com

亀田 郁夫（かめだいくお）

鴨川市選出
昭和 27 年 2 月 16 日生まれ



事務所 /
〒296-0041 鴨川市東町 665
TEL : 04-7099-0190 FAX : 04-7099-0191
<http://www.kamedai190.com/>
e-mail : ikuo-k@leaf.ocn.ne.jp

県南思考 Vol.11

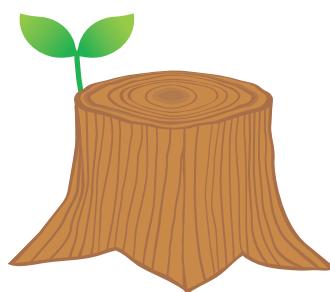
発行 : 2013 年 1 月 19 日

制作 : 「県南思考」制作委員会

編集 : 式守編集工房

デザイン : 野村友紀

南の風を県政に。南房総選出の県議による「県南思考」は市民の皆さんとともに、県南のあるべき姿を追い求めていきます。本紙をお読みになった感想、ご要望、その他ご意見は各県議の事務所までお気軽に寄せください。



林業再生プロジェクト

木を使う。地元産の木を使う。
豊かな森林資源をもつ、
南房総ならではの取り組みが始まった。



昨年12月3日、南房総市千倉町に朝夷行政センターがオープンしました。

戸籍、住民票、印鑑証明などの発行、その他、地域における行政サービスの拠点として、連日、たくさんの市民の方々に利用されています。

その訪れた市民を迎えるのが、木を使ったインテリア。

受付カウンター、空間を効率的に使うための間仕切り、これらにすべて南房総産の桧・杉材が使用されています。

「お役所といえば、だいたい無味乾燥なコンクリートづくりで固い印象がありますが、こうして木が使ってみると、気持ちもやわらぎますね」

と、窓口を訪れた市民のおひとり。

フロアの一角にはおしゃれな薪ストーブが置かれ、赤々と燃える炎が手続きを待つ人々の頬を照らしています。

その燃料も、地元で産出される間伐材を使った薪を使用。もちろん、薪ストーブだけでセンターの暖房をまかなっているわけではありませんが、エアコンの補助的な存在



朝夷行政センターのフロアに設置された薪ストーブと宇山富一所長



としてエネルギーの節約に貢献しています。「当センターには市民の方はもちろん、他の公共機関の方もお見えになる。多くの方に、木を活用したいわモニターとして当施設をごらんいただきて、徐々にこの考えが各地に広がっていけばと考えているんです」

と、同センター所長の宇山氏はその背景を語ります。

こころ安らぐ空間で勉強
その朝夷行政センターから山に向かって、クルマで10分ほど走った南房総市沓見に丸山中学校があります。

丸山中学校は平成17年に新築された際、随所に木材を使ったデザインで校舎が建てられました。

南房総の場合、とくに力が入れられているのが木質バイオマスの利用です。

木質バイオマスとは、伐採されたまま使われていない間伐材や製材の過程で出る端



境として学校はあたたかみのある空間であってほしい。そこで、積極的に木材を使用したんです」

と、高橋史郎校長。

廊下や階段にはふんだんに木が用いられ、それぞれの教室にも天井に木製の梁を渡すなど、学校全体がまるでかつての木造校舎のような木のぬくもりであふれ、そんな余裕のある空間で、ノビノビと生徒たちが勉強を続けています。

材料となった木材は、ほとんど地元の丸山町で産出された杉材を使用。「自分たちの生まれ育った場所で産出された木材に触れなが

ら学校での時間を過ごす。そのことが、生徒たちの心になにかを残すのではないかと思っています」

木材の新しい活用法

2010年10月1日、木材利用促進法が施行されました。

これは、低迷が叫ばれている林業の再生をはかるために積極的な木材の需要を喚起しようというもので、具体的な方針としては、低層の公共建築物を木造にし、あるいは内装などに木材を使用。さらには、「備品や家具も木材を利用する」「木質バイオマスを利用する」「公共土木工事に木材を利用する」などといった目標をかかげています。

南房総の場合、とくに力が入れられているのが木質バイオマスの利用です。

木質バイオマスとは、伐採されたまま使われていない間伐材や製材の過程で出る端

材、樹皮などを「資源」として活用しているという考え方から、製紙用の原料、燃料などに利用されています。

森林組合安房支所の加工工場では、作業の工程で出た端材や規格に入らない木材を薪にし、あるいは細かなチップに次々と加工。「このチップは主に牛舎でワラに代わる敷料



山から切り出した木材は加工工場に運ばれ、さまざまな製品となって出荷されていく

として利用されています。薪は一定の長さに切りそろえて、近くの農家へハウス栽培の燃料用として出荷しています」

と、作業の手を休めて語る工場の担当者。木は、燃やしても大気中の二酸化炭素の濃度に影響を与えない「カーボンニュートラル」な特性をもつエネルギー資材です。化石エネルギーに対して地球温暖化対策に大きな効果が期待できるため、一部の自治体では「グリーン電力」として木質バイオマスによる発電も始まりました。

千葉県でも有数の森林が広がる南房総。もしもこうしたプロジェクトが軌道に乗り、社会のシステムとして木の活用が定着していくれば、資源は無限といつても過言ではありません。

公共の建物を木造にする、内装に木を使う、間伐材をムダなく活用する、あるいは個人の家を新築、リフォームするときに地元産の建築材を使用する。

暮らしの中で積極的に木を使うことで需要が増えれば、再び人が森に入るようになり、雇用を生み、経済の活性化と山の再生も進んでいくはずです。

木を使うこと。それは大切な資源である森林を活かすことになるのです。



●千葉県森林組合安房支所
〒299-2727
千葉県南房総市和田町黒岩 380-5 ☎0470-47-2227
詳細は 千葉県森林組合安房支所 検索

植林、間伐、枝打ちといった森林整備事業。森林病害虫防除。椎茸、木炭などの林産物や、苗木、林業用器材の販売。さらには森林教育の実施など「森林」をテーマにした幅広い事業を展開中。近年は間伐材を利用したさまざまな加工品の開発、販売にも意欲的に取り組んでいる。

Pin Point

インタビュー

森林組合におたずねします。

林業を再生するには、南房総に広がる森林の現状を知らなければなりません。森林組合をおたずねし、対策の最新情報をうかがいました。

南房総に広がっている森林ですがどんな木が多いのでしょうか。

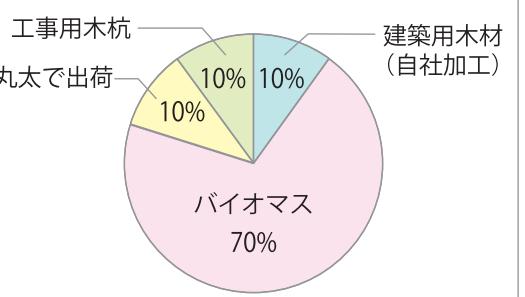
安房支所の管轄は鋸南町から南房総市、館山、鴨川まで、およそ4万ヘクタールほどあります。その森林の4割は植林された人工林で杉、桧、松、櫟などがメインです。なかでも多いのは杉で、人工林の9割を占めています。事業として活用しているのは、この人工林の木材になります。残りの60%は自然林で、おもに照葉樹が中心です。

切り出した木材の活用法を具体的に教えてください。

昔は、木材の利用法といえば薪炭と建築材を中心でした。自分の山の木を切って家を建てるのもめずらしくありませんでした。しかしながら薪や炭はほとんど需要がなくなり、建築資材についても安価な外材が入ってくるようになりました。国内の林業が盛んだったのはおそらく昭和40年代の初頭ぐらいまでで、その後は下降線を描き続け、ピーク時に

杉の丸太が1立方で約2万円したのが現在は6千円を切り、3分の1以下に下落しています。したがって現状では、いい木材を市場に出しても採算が取れないため10%程度と控えめにして、代わりに木質バイオマスとしての加工、製品化に力を注ぎ、その割合は70%前後となっています。チップに粉碎して家畜の敷料にしたり、製紙メーカーへ原材料として納めています。南房総市には地域資源再生課があり、森林資源もその対象になっているため公共施設の暖房や園芸農家でハウス用の燃料として利用するなど、活用範囲が広がりつつあります。他には丸太のまま出荷したり、南房総は

伐採した木材の活用法



地滑りが多いので、その対策に用いられる木杭としても利用が増えています。

木材利用促進法が施行されました。
南房総の林業は変わりますか。

入り込んだ地形を持ち、さまざまな樹木が複雑に茂っている南房総では大規模な機械化林業はむずかしいものがあります。建築用の木材で利益が出ないいま、積極的にバイオマス方面に力を入れる必要があり、その基本的な路線は大きく変わらないはずです。個々の森林所有者は利益が出ないためなかなか山に入りませんが、かといって荒廃が進むのを手をこまねいて見ているわけにはいきません。そこで、所有者と地道な交渉を重ねて、エリア全体を集約して、所有者に代わって大規模な伐採、植林を行うことなどで森林を整備。時には桜を植えるなど景観面も考慮した事業を展開しています。森林の整備と需要の拡大。南房総の林業は、この地域の中で消費、循環させていくのがぞましい形です。今後もその方向で取り組んでいきたいと考えています。



南房総の森林事業について武山富士雄業務部長（右）、長谷川清次郎支所長から説明を受ける3県議